

六田晴洋の

# 私たちの ご近所さん



VOL. 37 ジリとタンチョウ

今年もジリの季節がきました。温かく湿った南風が、冷たい海で冷やされて発生するジリ。その仕組みを少し詳しく紹介しましょう。

空気は温かいほど、たくさん水分を蓄えられます。しかし冷えると、抱えきれなくなった水分が、空中を漂うほどの細かい液体として現れます。冷たい飲み物が入ったコップに水滴がつくのと同じことが、海で起きているわけです。

「ジメジメする」と敬遠されがちなジリですが、私はけっこう好きです。夏の日差しを遮り涼しさをもたらしてくれますし、何より撮影者としては、なんてことのない光景を幻想的に変えてくれるからです。

「ジメジメする」と敬遠され

がちなジリですが、私はけつこ

う好きです。夏の日差しを遮り

涼しさをもたらしてくれますし、

『あのタンチョウ』と

今後の課題

北海道初心者だった10年ほど

前は、その姿を見て興奮してい

たことが懐かしいタンチョウ。

白糠に住む今となっては日常の

一部となり、レンズを向けるこ

とも減りました。実際、タンチ

ョウの数は増え、今年、環境省の

レッドリストで絶滅危惧種から

ランクが下がりました。かつて絶滅寸前に追い込まれた野生生物が『なんてことのない光景』となるまで復活したことは素晴らしいことだと思います。

今回の写真は、濃いジリの中

で撮影した求愛ダンスと、その

直後の表情です。このジリは、

私が出会ったばかりの頃のタン

チョウを再び見せてくれた気が

しました。神秘さと力強さを併

せ持つ、記憶の中の『あのタンチョウ』。カメラもぬれる厄介なジリですが、一方では魅力を引き立てられる天然のフィ

ルターとなるのです。

ただ、タンチョウの数が

が増えるとともに問題も

生まれ続けているそうです。

畑の作物を食べてしまつたり、

接近に驚いた牛がけがを

けがを

身近な鳥だからこそ、きれいな鳥

れい事だけでは済まない現実があります。

野生生物との共生のかたちは、

時代とともにその課題も

変わっていくのだと痛感

します。



濃霧の中のダンス



霧でびしょり濡れる毛

## PROFILE

六田晴洋 ろくたはるひろ

1986年生まれ。  
2021年に白糖町へ移住。  
大学卒業後、フリーランスの  
カメラマンやディレクターとして  
野生動物や自然風景を撮影している。  
<https://rokutaharuhiro.com>

